

平成30年度第1回 大磯町子ども・子育て会議 会議録

1. 日時 平成30年8月21日（火）
開会時間 午前10時00分
閉会時間 午前11時30分
2. 場所 大磯町役場本庁舎4階第一会議室

3. 出席者

【委員】

和田 久美子 会長
山田 雅井 副会長
小磯 信一 委員
野地 淳子 委員
秋山 実 委員
三上 直子 委員
藤田 左知子 委員
宮崎 晃子 委員
池田 明美 委員
鈴木 綾子 委員
牛見 真由子 委員
楠田 碧 委員
竹内 京三 委員

【事務局】

瀬戸 克彦 子育て支援課長
野崎 和也 子育て支援課子育て支援係長
田中 恵子 保育園・幼稚園係長
木村 美樹 子育て支援総合センター主査
露木 紗恵 子育て支援係主事
川口 彩 子育て支援係主事補
中崎 久雄 大磯町長

【記録】

山川 鈴音 (株)サーベイリサーチセンター

(欠席者)

仲手川 千景 委員（たかとり幼稚園新倉教頭代理出席）

4. 傍聴者 1名

5. 報告事項

6. 配布資料

次第・委員名簿

【資料1】第2期大磯町子どもかがやきプラン（子ども・子育て支援事業計画）の策定について

【資料2】大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《平成29年度》（案）について

【資料3】大磯町子ども笑顔かがやきプラン 新規事業等の進捗状況について

【資料4】（仮称）東部子育て支援センターの在り方について

【資料5】大磯町子ども・子育て会議規則

【当日配布資料1】子ども・子育て支援事業計画の動向について

【当日配布資料2-1】大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた
利用ニーズ調査 調査結果報告書

【当日配布資料2-2】大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた
利用ニーズ把握のための調査（小学生用）調査結果報告書

7. 議題

- (1)第2期大磯町子どもかがやきプラン（子ども・子育て支援事業計画）の策定について
- (2)大磯町子ども笑顔かがやきプランの進捗状況の点検・評価（平成29年度）について
- (3)その他

1 開会

事務局）これより平成30年度第1回大磯町子ども・子育て会議を開催します。本日はお忙しいなかお集まりいただきありがとうございます。

まず始めに、町長より委嘱状を交付させていただきます。

2 委員の委嘱

各委員への委嘱状を交付

3 町長あいさつ

町長）本日は、平成30年度第1回大磯町子ども・子育て会議にお集まりいただき有難うございます。

第1期となる大磯町子ども笑顔かがやきプランが来年度で計画最終年度を迎え、今まで計画に基づき町がやってきたもの、やれなかったもの、また、新たに社会情勢も変わってきた中で変えるべきものなど皆様からご意見をいただき、課題等を整理しながら第2期となる新たな計画を策定していく必要がございます。

幸い、大磯町の出生数は、この4年間で毎年増えてきております。その中で、幼稚園の統廃合や新たに認定こども園も設置され、名称は違っても、今後も町が一体となって子どもを育てていくその姿勢に変わりございません。

また、町の中での課題としまして、先般、心配りが必要な母と子への支援について、療育講演会を開催いたしました。現在、発達障害のある子どもも増えてきており、支援の体制を整えないと、不登校につながる可能性があるなど問題もあります。その要因や背景について、様々な問題が複雑に絡み合っており、その理由についても深く掘り下げていく必要があると考えております。

この第1期である大磯町子ども笑顔かがやきプランはどこにもない素晴らしいものであると確信しておりますが、子どもをめぐる様々な問題や課題もあり、それらを解決し、もっともっと地域全体で子どもたちが一つになれるように、委員の皆様からご意見をいただけるようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

4 自己紹介

5 会長及び副会長の選任

事務局）会長、副会長の選任につきましては、大磯町子ども・子育て会議規則第5条（会長及び副会長）の規定により、委員の互選により会長及び副会長をそれぞれ1人置くことになっております。委員の中でご推薦はありますか。

（特になし）

特になければ、事務局案を提案させていただきたいと思っております。事務局としては、会長には、昨年度の子ども・子育て会議の会長を務めさせていただきました和田委員に引き続き会長を、また、副会長には、昨年度の本会議で副会長を務めていただいた山田委員を推薦したいと思っておりますがいかがでしょうか。

（異議なし）

皆様のご賛同をいただきましたので、会長には和田委員、副会長には山田委員で決定させていただきます。

事務局) 会議は大磯町審議会等の会議の公開に関する指針に基づき原則公開となっています。当会議についても公開の対象となっているため一般公開されます。会議内容につきましては録音をし、会議録を要旨概要のかたちで後日町のホームページに公開させていただきます。公開する会議録では、発言者の個人名は入りませんのでご了承をお願いいたします。

あいさつ

会長) 福島県立医科大学から来ています。元々東海大学に所属していた時から携わっており、引き続きお声がけをいただき参加しております。大学では子どもの看護に関しての教員をしています。この場では私自身も学ばせていただいております。今回も皆様にお力添えいただきながら、ご意見をまとめていきたいと思っておりますので、ご協力をお願いします。

副会長) 大磯町ですずっと子どもたちの成長を見守ってきました。節目の時期には保護者やお子さんから相談をいただいております。その中で子どもが健康に育つには、ひとりひとりが受け入れられ、認められるということが大切だと感じております。子どもの内面を守っていくことが重要ですが、目に見えない部分に関わっていくことが難しい。より行政とのあり方を整えていければと思います。よろしくをお願いいたします。

6 議題

《資料説明》

- (1) 第2期大磯町子どもかがやきプラン(子ども・子育て支援事業計画)の策定について
- ・第2期大磯町子どもかがやきプラン(子ども・子育て支援事業計画)の策定について【資料1】
 - ・大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ調査 調査報告書【当日配布資料2-1】
 - ・大磯町子ども・子育て支援事業計画の策定に向けた利用ニーズ把握のための調査(小学生用)調査結果報告書【当日配布資料2-2】
 - ・子ども・子育て支援事業計画の動向について【当日配布資料1】

(説明省略)

《質疑応答》

会長) 今の説明に意見はありますか。皆様がお考えの間に私からひとつ質問を。ニーズ調査の対象の世帯はどのように決めるか。

事務局) 未就学児1,500世帯、小学生1,000世帯を無作為に抽出して、対象世帯にアンケートを送付する。アンケートの素案については事前に皆さんに送付させていただき、次回の会議でご意見を頂戴したい。そしてそのアンケートをもとに現状の子育て世代のニーズを把握して次期計画の策定に盛り込んでいきたい。

会長) 他に質問はあるか。

委員) 放課後子ども新総合プランの内容についてわかることを教えていただきたい。

事務局) 放課後の居場所づくり事業というものがあるが、例えば学童や放課後子ども教室が挙げ

られる。大磯町で週1回、放課後子ども教室をやっている。そういった放課後の子どもの居場所の量の確保、国としてはそういったものをもっと広げていき、さらには、放課後子ども教室と連携しながら学童の待機児童を減らしていきたいと考えている。それら国の考えに基づいて量の確保体制を計画の中に盛り込んでいくといった点が主な内容であると考ええる。また詳しい内容については次回以降の会議で分かってくるところがあれば、その辺りはしっかりと確認をしながら、第2期の計画に漏れがないようにしていきたい。

会 長) 他に質問等はないか。国から出ている子ども子育て支援事業計画については未知数なところも多いと思うが、大磯町としての現時点の考えについて皆さんから気になるところが何かあれば。まだ正式な情報は出ていないと思うが、幼児教育の無償化について現時点で構わないので、大磯町としての考えはどうか。

事務局) 現時点では、国から正式決定している情報はないが、3～5歳の1号認定・2号認定の児童に関しては無償化と検討されている。時期としては2019年の10月以降ということで、お話をいただいている。あと3号認定・3歳未満児に関しては、大磯町の保育料の階層が8階層あるなかで、今の時点では2階層以下の区分に入る世帯は保育料無償化、3階層以上の方に関しては保育料を徴収するという方針がでている。それに対する動きや体制は、これから出る方針にしたがって町の体制の強化に努める。

会 長) 他に何かあるか。(特になし) 後ほど質問をしていただいても構わないので、次の議題に移らせていただく。

《資料説明》

(2) 大磯町子ども笑顔かがやきプランの進捗状況の点検・評価(平成29年度)について

- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン進行管理書《平成29年度》(案)について【資料2】
- ・大磯町子ども笑顔かがやきプラン 新規事業等の進捗状況について【資料3】

(説明省略)

《質疑応答》

会 長) 今の内容について質問やご意見はあるか。

委 員) 2番の放課後子ども教室についてうかがいたい。私も放課後子ども教室のボランティアスタッフとして携わっているのだが、放課後子ども教室と朝の居場所づくりについて参加児童が増えているということで、その点の課題などについての認識はどうか。

事務局) 放課後子ども教室や、朝の居場所づくりに関しては、参加児童数は年々増加している状況である。放課後子ども教室は原則水曜日に、ボランティアスタッフの見守り、小学校の校庭や体育館で交流しながら、子どもたちがボランティアスタッフと活動しているといった事業である。先ほども申し上げたとおり、1回あたり最大180人近くの児童が参加しており、県内トップクラスの参加実績となっている。朝の居場所づくり事業についても、全国的にも取り組んでいるのは大磯しかない状況であるが、こちらの利用者も少しずつ増えてきている状況である。課題としては、ボランティアスタッフの確保が挙げられる。広報等で募集をかけたが、学校経由で保護者あてに募集をかけたが、なかなか人手を集めるのは苦労している。この点については、特に必要な資格もないため、委員の皆様の中かで手伝っていただける、もしくはご協力いただけそうな地域の方にお声がけいただき、その際は事務局に声をかけて頂ければ非常に有難い。

また、もう一つとしては、学校でこれから英語の授業等、授業のコマ数が増え始めると

いった見直しが、再来年度あたりに予定されている。そうすると放課後子ども教室は放課後に開催しているため、学校の授業数が増えることによってどのような影響が出るのかという懸念もある。そのあたりは、今後の課題として学校とも協議していきたいと思っている。

会 長) 他に質問等はあるか。

委 員) 3-1の出産育児不安の解消というところで、新生児訪問と二歳児訪問というのはわかるが、その間の育児の不安、解消というのは何かされているか。それは他のところに記載してあるのか。

事務局) これは母子保健の関係になるのだが、だいたい検診時に8~10か月児健康診査や1歳6か月児健康診査、2歳児歯科検診等の検診の中で、母親に不安があるようであれば、そのなかで心理士の個別相談をさせて頂いたり、保健師にフォローに入っていただくというかたちでサポートさせていただく。また、子育て広場にいらっしゃっているお母さんについては、広場の中で相談を受け、不安が強い場合は保健師にお伝えするようなかたちで対応している。

会 長) 他に何かあるか。

委 員) 資料2、進行管理シートの7ページ、平成29年度のたかとり幼稚園雨水排水修繕工事についてだが、この計画は一度終わっているということか。また今後の計画の中で出てくることはあるのかについておうかがいしたい。

もう一点、63ページの平成29年度の真ん中あたりに、利用者数のめばえの人数の記載があり、平成29年度が大幅に減少しているが、何か原因があるのか。

事務局) たかとり幼稚園の関係について、保護者の方にも大変ご迷惑をおかけしていたところである。平成29年度に関しては北側の園舎の屋根からの排水がうまく機能していないところがあった。そのため北側の排水升を3つほど設置し、ダイレクトに外に水を出せるよう工事をさせていただいた。今後の予定としては30年度に入り、園舎の西側の屋根についても、うまく雨水を排水できないところがあり、こちらに関しては建設課の協力を得て修繕の工事をした。更に西側の部分に関しては、より安全に排水をする手立てとして、今週から着工予定で進めている。今後台風の時期に備え、修繕工事に入る。今後も安心して保育ができるような環境を整えていきたいと思っている。

事務局) 広場に関しては、平成29年度の実績の数字に誤りがあったため口頭で訂正させていただく。前のほうが9,780人になっているが、正しくは11,659人で東部のほうに変更はない。そのため利用者数は全体で15,670人になる。平成28年度と比べて若干下がっている。私どものほうでも平成29年度の前半部分から少し利用人数が減っているのを感じていたため、いろいろところで啓発活動をしたもののなかなか伸びなかった。その原因として考えられるのは、星槎学園で開催していただいたき、とても人気のあった親子のふれあい教室を、月に二回、多い時で三回、木曜日に実施した際に、利用された後そのまま広場のほうも引き続き利用して頂き、その人数のカウントも入っていたが、平成29年度はその教室開催場所を移行されたため、その分の人数が少なくなったのではと推測される。

会 長) 私のほうから一点よろしいか。前計画から関わってきたところだが、新しくできた認定こども園は、公立の施設が統合してできたということは、待機児童の問題も関係しているかと思ったので、それから待機児童は減ったのかということと、まだ公立の施設があるの

で、今後統廃合するなど方向性があればうかがいたい。

事務局) まず待機児童数については、毎年4月と10月を基準として確認をしているが、メインとなる4月の待機児童数が今年13名になった。昨年までの3カ年は18人であった。待機児童の数の算出の仕方は、国の定義にあてはめている。待機児童に至る前の保育を希望したところ希望の保育施設に入所できなかったという入所保留児童は、やはり50名近くになる。その数字を国の定義にあてはめて算出をすると待機児童数13名になる。サンキッズ国府の開園に伴って、大幅に改善はされないもの今年度に関しては減少している。入所保留児童の希望を見ていると、まだ育児休業をとれるが入所の希望を出されて、結果的には待機児童の定義から外れることもある。さらには、今までの既存の施設に入られた方が卒園まで在園するという傾向が高く、園児の移動というものが見られなかった。期待していたのは、東のエリアの保育施設に入られている方のなかで、居住が国府の方が国府小学校の学区を見据えて、サンキッズ国府に移ることがあるのではというところであった。しかし結果としては、東の地区の待機児童数が多いままであるため、今後の入所希望のなかでサンキッズ国府や国府保育園の動向推移を2、3年程度見ていき、今後の保育施設の在り方を考えていきたい。

続いて公立幼稚園の統廃合については、現在町の施設の個別計画上、町立幼稚園2園に関しては存続、保育園に関しては存続しつつ、施設の老朽化などもふまえて維持、統廃合の必要性について検討していきたい。しかし、直近の第二期計画で具体的に進めていくといった検討がいまのところなされていないため、保育ニーズや待機児童数を考慮、また全体計画を見定めたなかで相談しながら考えていきたい。

会 長) 他に何かご質問等はあるか。(特になし) 無いようであれば、次に議題について事務局から説明をしていただく。

《資料説明》

(3) その他

- ・【資料4】(仮称)東部子育て支援センターの在り方について

(説明省略)

会 長) それでは質疑に入る。

委 員) 駐車場はあるか。

事務局) 三台設置の予定である。

事務局) このすぐそばに町有地があるため、そちらも駐車場で借りることを考えている。線路際に道路残地があり、そこに何台か置けるスペースがあるためその活用も考えている。

会 長) 他に質問はあるか。

委 員) 東部のほうが委託になった場合は、国府新宿にある子育て支援総合センターも委託に変わることはあるのか。

事務局) 子育て支援総合センターは子育て広場だけではなく、発達支援の相談であったり、児童虐待の相談も含まれる総合センターと位置付けている。今後どのような体制になるかは決まっていない。今のところは、引き続き町の職員での対応を考えている。

会 長) 全体を通して本日の会議について、ご意見やご質問はあるか。

事務局) 事務局から次回の子ども子育て会議の開催日程についてお話を。次回の会議開催の日程を事前にご連絡させていただいたところ、委員の皆様から調整表をいただくことができた。そこで一番多くの方が出席していただける日程が10月5日14時30分～であったため、この日程で調整させていただきたい。次回の会議の中では、ニーズ調査票の内容について等の会議資料を事前に郵送し、資料を確認のうえご意見をいただきたい。他には、先ほどの東部子育て支援センターの体制の在り方についても意見を伺いたいと思う。

会 長) 他に何かあるか。(特になし) 次回の会議に出席できない方もいるということだったので、事前に送られてきた資料を見ていただき、意見がある場合には事務局に連絡をしていただきたい。他にございますか。よろしければ、次回の会議は10月5日14時30分から開催する。開催通知は事前に事務局から連絡があるので委員の皆様のご出席をお願いします。

それでは、第一回大磯町子ども子育て会議を終了する。ご協力ありがとうございました。

7 閉会

終了